



代表: 国際人文学部国際交流学科3年 木原あすか

チームメンバー: 嶋原菜穂・常松綾乃・加古達輝・相良朋子・安中都・城家陽織・柳澤駿・長田草太・佐藤泰紀・佐藤穂乃花・宮本明果・相樂瑠歩・守岡真優

「自然や人との優しい繋がりと持続可能な社会の実現のためにできること」— 国際協力チーム



研究の目的

国際開発研究会では、「自然や人に優しい繋がりと持続可能な社会の実現のためにできること」を共通テーマに、さらに「パーム油をめぐる諸問題と自然環境」と「ジェンダーと人権・異文化理解」の2つをサブテーマとして研究活動に取り組みました。ここでは、1つ目のサブテーマについて、特に「パーム油をめぐる諸問題」と「自然環境を守る活動」について報告します。

自然との優しい繋がりのために—パーム油をめぐる諸問題

「パーム油生産がもたらす環境や野生動物、人への影響」について

オンライン勉強会を実施 (毎週火曜日)

私たちは、今年度、熱帯雨林で生産されているパーム油に関するグループワークを行ないました。国際協力に関する授業で学んだことを、さらに取り組んできました。パーム油の生産のために、熱帯雨林は伐採され、代わりにアブラヤシがプランテーション農園で栽培されています。私たちの多くはそれに気づかずに消費していますが、自然環境や野生動物、また人にも大きな影響を与えています。私たちは、この問題を掘り下げるために、パーム油に関する動画を視聴し、パーム油にはどのような問題が隠れているのか、また企業等による持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)はどのような仕組みなのかについても調べて、話し合いました。

パーム油って何？

オンライン報告会 (12月21日)

12月21日のオンライン報告会に向けて、試行錯誤しながら、どのように発表すればこの問題に興味を持ってもらえるのか、何度も話し合いながら原稿を準備しました。報告会には、知り合いや学外の方を含め18名が参加しました。パーム油を取り巻く現状や企業の取り組みを紹介しました。問題解決にはまだ時間を要するようですが、これらを踏まえて、来年度はさらに個々の企業について調べて、研究を深めていきたいと思えます。

自然環境を守る活動への参加

九十九里海岸でのゴミ拾い (2020年11月14日)

私たちは、九十九里海岸でゴミ拾いを実施しました。環境問題を考えるために、まずはどのようなゴミが海岸に捨てられているのかを理解するためです。メンバー5名が、午後3時から作業を行いました。ゴミは主として食べ物の袋やペットボトル、ビン、缶、マスク、使い捨てのライターなど、また大きなブルーシートや、漁で使う網などもありました。砂浜にゴミが埋められているところも数カ所ありました。作業は2時間ほどでしたが、3袋分のゴミを拾うことができました。

まとめ

現在、プラスチックのゴミ問題が取り上げられています。九十九里浜でも、多くのプラスチック製品が捨てられており、持ち帰りを強化すべきだと考えました。ゴミの削減やパーム油を取り巻く諸問題について、今後もさらに理解を深めるとともに、できることから活動し、持続可能な社会を目指します。

